



学校評価集計結果の報告

今年度も、全生徒・全保護者を対象に、下記の内容でアンケート調査という形で学校評価を実施しました。生徒からは519名、保護者からは327名の回答をいただきました。評価は4段階で実施し、結果は下記の表のようになりました。

なお、各項目について*4尺度法の評価で回答をしていただきました。*（4そう思う 3ややそう思う 2あまり思わない 1そう思わない）

評 価 結 果

○・・・3.1以上 ▲・・・2.5以下

領域	項目	項 目	生徒 21年度	生徒 22年度	保護者 21年度	保護者 22年度
学 校 に つ い て	1	生徒は学校生活を楽んでいる	3.44○	3.45○	3.68○	3.68○
	2	生徒は本校に入学して良かったと思っている	3.45○	3.50○	3.22○	3.22○
	3	生徒は目標を持って学校生活を送っている	3.05	3.07	3.16○	3.13○
	4	学校は家庭連絡や情報提供を積極的に行っている	3.10○	3.17○	3.22○	3.06
	5	開かれた学校づくりは、なされている	2.95	3.08	3.19○	3.07
教 科 ・ 授 業 に つ い て	6	わかる授業に努めている	3.13○	3.00	2.67	2.70
	7	生徒は授業中、集中して取り組んでいる	3.36○	3.30○	2.91	2.79
	8	授業中の生徒の態度について指導はできている	3.10○	2.96	2.72	2.71
	9	生徒が理解できているかどうか気に配っている	2.87	2.73	2.47▲	2.54
	10	生徒が意欲的に取り組む授業づくりをしている	2.96	2.91	2.73	2.76
	11	地域の環境や人材が、教育活動に生かされている	2.43▲	2.56	2.58	2.59
	12	授業評価表の結果を、授業改善に生かしている	2.14▲	2.41▲	2.24▲	2.33▲
	13	生徒の学力は向上している	2.74	2.76	2.60	2.53
	14	生徒を公平に評価している	2.61	2.75	2.54	2.62
	15	計画的な家庭学習の手だてをしている	2.76	2.84	2.66	2.70
学 校 生 活 に つ い て	16	生徒や先生のあいさつはよくできている	3.44○	3.36○	3.50○	3.38○
	17	生徒や保護者からの相談に積極的に応じている	2.51	2.59	2.83	2.81
	18	いじめなどない楽しい学級づくりに努めている	3.00	3.15○	2.99	3.02
	19	どの先生も、同じ方針で生徒指導をしている	2.63	2.76	2.25▲	2.22▲
	20	生徒のことを、よく理解している	2.84	2.87	2.68	2.64
学 校 行 事 に つ い て	21	学校は、校内の環境美化に積極的に取り組んでいる	3.26○	3.28○	3.37○	3.33○
	22	生徒会活動や委員会活動は、充実している	3.29○	3.29○	3.13○	3.18○
	23	学校行事は、生徒にとって楽しく充実している	3.42○	3.47○	3.61○	3.57○
	24	部活動は、生徒にとって充実している	3.35○	3.37○	3.37○	3.38○
	25	生き方について考えたり豊かな心を育てようとしている	3.00	3.12○	2.92	2.90

全体の傾向

生徒は、25項目のうち11項目で、また保護者は8項目で平均が3.1以上という評価でした。内訳を見ると、生徒・保護者ともに「学校について」の項目1～5と「学校行事等について」の項目21～25では、いずれも平均が3.2以上と肯定的な評価が目立ちました。また、生徒は学校生活全般について意欲

的に取り組んでいることがうかがえます【項目1・2・23・24】。

一方「教科・授業について」の項目6～15については、全体的に平均値が低く、生徒の平均が2.8なのに対し、保護者の平均2.6台で、依然として改善要望が強い状況にあります。なかでも、項目12は、昨年と比べるとやや肯定的な見方が増えてはいますが、平均が2.5以下なので、授業評価表の結果を授業改善に役立てながら、各教科でさらに授業のあり方等の見直しを進めていきたいと思えます。

次年度の大きな課題として「学校生活について」の中で、校内の生徒指導体制が生徒の評価と保護者の評価との間に大きな隔たり(0.54ポイント)があることがわかりました。学級や学年間だけの問題ではなく、組織としての機能のあり方について、見直しを図っていく必要があるかと思えます【項目19】。

最後に、アンケートにご協力いただきましてありがとうございます。上記の結果と自由記述の欄のご意見を十分参考にさせていただき、今後の学校経営に生かしていきたいと存じます。今後とも、本校に対するご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

千葉県特別支援教育振興大会開かれる

11月24日(水)に千葉県教育会館大ホールを会場に、千葉県特別支援教育振興大会が開催されました。この大会については、あまりご存じのない方が多いと思えますので、趣旨について説明したいと思います。

現在、千葉市内には小中学校177校中89校(設置率50.2%)に特別支援学級や通級指導教室が設置されています。また、特別支援学校には、二つの市立特別支援学校(市立養護学校、市立第二養護学校)と五つの県立特別支援学校(千葉聾学校、桜ヶ丘特別支援学校、仁戸名特別支援学校、袖ヶ浦特別支援学校、千葉特別支援学校)、千葉大学教育学部附属特別支援学校があります。また、在籍する児童生徒数も1,700名を超え、年々増加の一途をたどっております。さらには、通常の学級での特別な支援を必要としている児童生徒への支援も、特別支援教育コーディネーターが中心となり、校内支援体制が年々整備されてきております。

しかしながら、就学前の早期教育、就学前後の関係機関との連携、就学指導、交流及び共同学習の在り方、特別支援学校高等部生徒の急増による校舎の過密化、高等部卒業後の就労問題、通常の学級における特別支援教育の在り方など、多くの課題が山積しております。

一つ一つの問題解決のために、そして障害のある子もない子も共に支え合える学校・社会をめざすために、この大会を機に関係の皆様の一層のご協力とご支援をいただき、本教育の振興と発展を図っていきたく存じます。

上記のような趣旨のもと、千葉市教育委員会関係者等を来賓に迎えて、600名近い方々の参加がありました。開会式のあと、千葉市立真砂第四小学校特別支援学級の児童によるオペレッタ<雨にうたえば>と千葉市立松が丘中学校特別支援学級の生徒による<歌・合奏「君をのせて」>が披露されました。

そのあと行われた記念講演では、38歳のダウン症のお子さんをおもちだという相澤富代さんを講師にお迎えして「障害を持つ人と地域社会」という演題で講演をいただきました。

図書館指導員 垣沼先生の推薦図書

センセイの鞆 川上弘美 平凡社

図書室で購入する本の基準は、まず中学生に読んで欲しい本、そして学習で使う本になります。また先生方と生徒からのリクエストもあるので、結構バラエティにとんでいます。この「センセイの鞆」はリクエストから購入した本ですが、一般書として売られています。大人の方が読む本ということです。中学生は大人用の本も読めるようになってきます。おうちで本についてお子さんと話ができたらすてきなことだと思います。どうぞお子さんを通して学校図書をご利用ください。

